

## 東串良町複合施設建設基本設計（案）の概要に関するパブリックコメント（意見公募）の実施結果

意見提出者数：計6名 意見総数：計14件

No.	主な意見の要約	意見に対する町の考え方
1	① 景観面やデザイン性の観点からは魅力的であり、町の新たな象徴となり得るものと評価する。	本施設のデザインについて評価いただきありがとうございます。本施設は、町民の交流や文化活動の拠点として長く親しまれる施設となることを目指し、景観やデザインにも配慮した計画としております。
	② 外観デザインとしてガラス張りの部分が多い印象を受けた。本施設は台風等による暴風雨時の対応、避難所としての機能を担うことが想定されており、万が一の場合は現本庁舎に代わる災害対策本部機能を持たせる施設になるものと認識している。そのような重要な防災・減災拠点としての役割を考慮した場合、ガラス面の多い構造については、強風時の飛来物や破損等による安全性への懸念を抱いている。については、シャッターや雨戸等の設置、またはそれと同等以上の防災安全策を講じ、災害時においても確実に機能を果たせる、万全な構造とすることを強く要望する。デザイン性や景観への配慮も重要である一方、町民の生命と安全を守る施設としての機能が最優先されるべきと考える。見た目に関わることなく、実効性の高い防災対策を基本設計および今後の実施設計において十分に検討してほしい。	本施設は、災害時には避難所機能や災害対策機能を担う施設となることを想定しており、安全性の確保は重要な要素であると認識しております。ガラス面については、強度や安全性に配慮した仕様を採用するほか、飛来物対策や耐風性能を考慮した設計とするなど、災害時にも機能を維持できるよう検討を進めております。また、ガラス面の構成や面積については見直しを行いました。（完成予想図反映済み）今後の設計においても、防災拠点としての役割を十分に踏まえ、安全性の確保に努めてまいります。
2	① 鹿屋市と志布志市の中心にある町で、どちらからも同じくらいの距離だと思う。そのような場所に人が集まれるようなカフェなどが入ってくると複合施設の意味もあると思う。	本施設は、町民の交流や賑わい創出の拠点となることを目的としており、来館者が気軽に立ち寄り、滞在できる空間づくりが重要であると考えております。施設機能の検討にあたっては、民間事業者の参入可能性を把握するためのサウンディング調査を実施しましたが、常設飲食店舗の参入は厳しい結果となりました。このため、施設内には飲食スペースを設けるとともに、多様な自動販売機の設置などにより、来館者の利便性向上を図ることを検討しております。また、イベント時の出店などについても、今後の施設運営の中で検討してまいります。
3	① 有料でもいいので「ドッグラン」が欲しい。	本施設の整備にあたっては、敷地条件や施設の機能、維持管理面などを踏まえて導入する機能の整理を行っておりますが、いただいたご意見については今後の検討の参考とさせていただきます。
	② みんなが集まれるようなお店が欲しい。スタバなど。	常設飲食店舗の参入についてはNo.2①でお示ししたとおり、カフェ等の出店は厳しい結果となっております。あわせて、飲食スペース、多様な自動販売機の設置等により利便性向上を図ることを検討しております。
4	① ガラスの面積が多い気がする。数十年に一度等の災害が多発する中で、避難施設として安全、安心なのか。	本施設は災害時の避難所としての機能を想定しており、安全性の確保は重要であると認識しております。ガラス面の安全性については、No.1②でお示ししたとおり、耐風性や安全性に配慮するとともに、配置や面積の見直しを含め検討しております。
	② 図書室の資料は劣化を防ぐために基本日光に当てないように。景色が見えるのは良いが、あまりにもガラス面が多過ぎないか。仮にUV加工等が施されていたとしても、真に資料の劣化に繋がらないという根拠はあるのか。	図書資料の保存環境については、直射日光や紫外線による劣化を防ぐことが重要であると認識しております。本計画では開口部にLow-Eガラスを採用しており、日射熱の抑制に加え、一定の紫外線低減効果が期待できるものと考えております。一方で、Low-Eガラスは紫外線を完全に遮断するものではないため、ガラス仕様のみには依存するのではなく、複合的な対策を講じることが必要であります。そのため、ブラインド等による遮光対策により日射を適切に制御するとともに、特に西日などの影響を受けやすい方位に対しては、書物に直射日光が当たらないよう極力書架の側面を向けるように配置するなど、レイアウト上の工夫も行ってまいります。以上のように、ガラス性能・遮光設備・書架配置を組み合わせることで、景観や開放性を確保しつつ、資料の保存環境にも配慮した計画としております。

No.	主な意見の要約	意見に対する町の考え方
4	<p>③</p> <p>立地場所及び付近では犬の散歩をする人が多く見られる。ペットは家族と考える人が増える中、災害時及び平時においてペットも安心して過ごせる空間を設けてほしい。</p>	<p>近年、避難所におけるペット同行避難への対応の必要性が高まっていることは認識しております。本施設における災害時の避難所運営については、国や県の指針、町の地域防災計画等を踏まえながら、ペット同行避難への対応についても今後検討してまいります。</p>
5	<p>①</p> <p>全体的に建物外形の凹凸が多い設計であるとの印象を受けた。意匠性やデザイン性への配慮は理解するが、凹凸が多い建築物は一般的に、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁や屋根の劣化箇所の増加</li> <li>・雨水滞留や漏水リスクの増加</li> <li>・点検、清掃、修繕時の作業効率の低下</li> <li>・足場設置等に伴う維持管理費の増大</li> </ul> <p>といった課題が生じやすいと考えられる。</p> <p>本施設は長期にわたり町が維持管理していく公共施設であり、建設費のみならず、将来的なライフサイクルコストを十分に考慮した設計であることが重要だと思う。現在の形状が維持管理費に与える影響や、形状を簡素化した場合との比較検討の有無について、町としての考え方を説明してほしい。</p>	<p>本計画において建物外形に一定の凹凸を設けている理由は、意匠性のみを意図したものではなく、各機能の特性に応じたゾーニングを明確に分節することにあります。</p> <p>本施設には、多目的ホールやスタジオ、子育て広場、図書室など、音や利用形態の異なる諸室が混在しているため、これらを適切に隔離した配置とすることで、過度な遮音構造や設備的対策に依存せず、建築計画的に音環境を確保することを主な目的としております。これにより、高度な遮音壁や二重構造化等に伴うコスト増を抑制しつつ、利用上の快適性を確保できる計画としております。</p> <p>一方で、ご指摘の建物外形の複雑化については、下記配慮をしております。</p> <p>まず、外壁や屋根の劣化リスクに対しては、過度に複雑な納まりとならないよう細部の調整を行うとともに、水切りや笠木の適切な設置、屋根の勾配計画により雨水の滞留を防止し、劣化の抑制を図っております。</p> <p>また、雨水の滞留や漏水リスクに対しては、屋根防水としてアスファルト防水（保護コンクリート仕上げ）を採用する計画としており、防水層の耐久性確保と外的要因による損傷リスクの低減を図っております。あわせて、各屋根面において確実な排水計画を行うことを目的に、樋については原則として複数系統（2箇所以上）を設けることで、万一、一部が閉塞した場合においても排水機能が維持されるよう冗長性を確保しております。</p> <p>点検・清掃・修繕時の作業性については、建物外形により外壁面積が増加することは認識しておりますが、各諸室間には十分な隔離を確保した配置としているため、作業員の立ち入りや作業スペースは確保されており、実務上の作業性の低下にはつながらないものと考えております。</p> <p>さらに、足場設置等に伴う維持管理費については、本計画における外形の凹凸は主に1階レベルで構成されていることから、通常の維持管理行為においては大規模な仮設足場を伴わず対応可能な範囲と想定しており、維持管理負担の抑制に配慮した計画としております。</p> <p>以上のように、本計画の外形は機能的合理性に基づくものであり、維持管理面にも配慮した計画としております。</p>
5	<p>②</p> <p>「シェアキッチンとスタジオ(1)(2)」、「練習室と楽屋(1)(2)」が離れた配置となっているように見受けられる。機能的な理由があるものと推察するが、動線効率、利用者利便性、空調効率、防音施工の合理性、維持管理のしやすさ等を考慮した場合、隣接配置とする方が効率的ではないかと感じた。これらの配置計画の根拠について説明してほしい。</p>	<p>本計画における各諸室の配置については、利用者属性および利用形態の違いを踏まえ、機能的合理性に基づき計画しております。</p> <p>まず、楽屋については主に多目的ホール利用者の控室としての利用を想定していることから、舞台への出入りや転換作業の効率性を重視し、舞台周辺に近接した配置としております。また、練習室についても一般利用に加え、舞台利用者のリハーサル利用を想定しており、同様にホール機能との連携を重視した配置としております。これらの諸室は、特定の利用時に集中的に使用される性格のものであり、日常的に高頻度で利用される諸室ではないと想定しております。</p> <p>一方で、シェアキッチンやスタジオについては、日常的な利用が見込まれる諸室であり、利用者の活動がエントランスホール等の共用部と連続することで、施設全体の賑わい創出に寄与する空間として位置付けております。そのため、これらの諸室は共用部に近接した配置としております。</p> <p>このように、ホール関連機能と日常利用機能を利用特性に応じて適切に分節することで、それぞれの使いやすさと施設全体の魅力向上を図っております。</p> <p>動線効率については、建物内を回遊可能な回廊型の動線構成としており、特定の諸室間の移動において著しい迂回が生じない計画としていることから、全体として効率性は確保されているものと考えております。</p> <p>利用者利便性については、シェアキッチンと練習室、スタジオと楽屋といった諸室の組み合わせによる利用は想定しておらず、主たる利用形態に即した配置としていることから、一般的な利用における利便性の低下にはつながらないものと考えております。</p> <p>空調効率については、各諸室ごとに個別空調を基本とした計画としており、諸室の配置によって空調効率が大きく左右されるものではないと考えております。</p> <p>防音施工の合理性については、スタジオや練習室等の発生音レベルの異なる諸室を適切に分節することにより、過度な遮音性能を求める必要がなくなり、合理的な仕様設定が可能となる計画としております。</p> <p>維持管理のしやすさについては、特定の諸室間の近接性に依存するものではなく、設備計画や点検動線の確保により対応するものであるため、本配置計画による特段の支障はないものと考えております。</p> <p>以上のように、本計画の配置は各諸室の利用特性に基づくものであり、動線効率、利便性、設備計画、防音性能および維持管理性を総合的に勘案した合理的な計画としております。</p>

No.	主な意見の要約	意見に対する町の考え方
5	<p>③ 全体計画をみて、ホール及び図書館の規模について、もう少し余裕があってもよいのではないかと感じた。特に図書館については、今後の人口構成の変化や学習需要、多世代利用、滞在型利用の増加等を考慮した場合、現計画規模で十分であるのか疑問を抱いている。</p> <p>図書館は単なる蔵書スペースではなく、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習、自習スペース</li> <li>・交流の場</li> <li>・子ども読書活動の推進拠点</li> <li>・高齢者の居場所機能</li> </ul> <p>など、多機能化が進む施設であると認識している。将来的な拡張の可能性や面積算定の根拠についても丁寧な説明をお願いしたい。またホールについても、将来的な利用拡大や文化活動の発展を見据えた規模設定となっているのか改めて検証してほしい。</p>	<p>本計画における図書室およびホールの規模については、想定される利用者数や施設の役割、他機能とのバランスを踏まえ、適切な規模設定を行っております。</p> <p>図書室については、ご指摘のとおり、近年は単なる蔵書スペースにとどまらず、学習・自習、交流、子どもの読書活動支援、高齢者の居場所機能など、多様な利用が求められているものと認識しております。本計画においても、閲覧スペースに加え、子育て広場との連携や共用部との関係性を考慮することで、滞在型利用や多世代利用に対応可能な計画としております。</p> <p>また、図書室の面積については、収蔵冊数を踏まえて必要な書架量を確保するとともに、バリアフリー上支障のない通路幅を確保した書架配置とすることを前提として算定しております。加えて、実際の閲覧席やソファ席、親子で利用できる読書スペースなど、多様な滞在形態に対応した空間を確保しており、単なる収蔵機能にとどまらない利用を見込んだ規模としております。</p> <p>一方で、施設全体としては、図書機能に加え、ホール機能や交流機能、日常利用機能等を複合的に整備する計画としており、限られた延床面積の中で各機能のバランスを図る必要があります。そのため、図書室単体の面積を拡張する場合には、飲食スペースやワーキングスペース等、他の利用機能とのトレードオフが生じる関係にあります。</p> <p>こうした点を踏まえ、本計画では図書室単独の拡張だけでなく、共用部や周辺機能との連携により、施設全体として図書機能を補完・拡張する考え方を採用しております。</p> <p>また、将来的な利用変化への対応については、可動間仕切りの活用やレイアウト変更により、一定の範囲で機能の再編が可能な計画としており、運用面も含めた柔軟な対応が可能であると考えております。</p> <p>ホールについても同様に、想定される利用規模や地域における役割を踏まえた適正規模として設定しており、過大な規模とするのではなく、維持管理負担も含めたライフサイクルコストの観点からバランスの取れた計画としております。</p> <p>以上のように、本計画は将来的な利用の多様化を見据えつつも、施設全体の機能バランスおよびライフサイクルコストを総合的に勘案した規模設定としております。</p>
④	<p>令和8年2月に、複合施設に関する内容のチラシが議員より配布されている。その内容が事実に基づくものであれば問題はないと考えるが、仮に事実と異なる点が含まれている場合、町民に誤解を与える可能性がある。</p> <p>本事業は町全体に関わる重要な計画であり、正確な情報共有が不可欠である。必要に応じて、町の事実関係及び公式見解を明確に示していただくことを要望する。</p>	<p>本事業に関する情報については、町ホームページや広報紙などを通じて、町としての公式情報を適宜発信しております。</p> <p>今後も町民の皆様が正確な情報が伝わるよう、丁寧な情報提供に努めてまいります。</p>
⑤	<p>⑤ 早期の完成を望んでおり、楽しみにしている。本施設は今後数十年にわたり町の中心的役割を担う重要な公共施設である。建設時の見た目や当初計画だけでなく、維持管理、将来需要、機能拡張の可能性まで含めた総合的な検討をお願いする。</p>	<p>本施設の整備に期待を寄せていただきありがとうございます。</p> <p>本施設は今後長期間にわたり町の拠点施設となることから、建設時の計画だけでなく、維持管理や将来の利用ニーズも踏まえた施設整備を進めてまいります。</p>
6	<p>① 計画の見直しを求める。現在のイランとアメリカ、イスラエルの戦争が今後の物価上昇を招くのは必至で、工期も延び、予算も膨れ上がることになり、財政が逼迫するのではと考えられる。誰もがそのような不安を抱える中で、強引に計画を進めるとなると、町執行部や職員に対して住民の不信感が生まれて、この町の今まで築いてきた信頼関係やまとまりが崩壊するのではと懸念している。</p> <p>また、この複合施設の建設が、これから当町に住み続ける住民へのサービス低下や負担増になれば、この施設の価値の低下につながるのではないかと思う。この厳しい現状は誰もが理解できることで、今までご尽力いただいた国会議員、県議会議員、設計会社などの関係者の皆様も理解いただけるのではと思う。</p> <p>その上で、複合施設の規模を含めた予算計画、ランニングコスト、建設時期を再検討してほしい。</p>	<p>近年の物価上昇や建設費の動向については、町としても注視しているところです。</p> <p>本事業については、国の補助制度等も活用しながら、町の財政状況や将来的な維持管理費などを踏まえ、総合的に検討を行いながら進めております。</p> <p>今後も社会情勢や財政状況を踏まえつつ、適切な事業執行に努めてまいります。</p>